資料3

前回会議（令和５年7月18日開催）での審議を受けての取組の方向性などについて

文化とは

・文化とは、１つは「空間的な広がり」。新宿があり、それをさらに広げれば、新宿から東京全体とつながる空間的な広がりがある。
・もう１つは「時間、過去とのつながり、歴史的な文学、歴史遺産」。新宿は、様々な文学、歴史遺産も残る。そういう時間的な歴史と空間的な広がり、その十字路に立つのが文化で、その文化に立って、両方を見渡しながら両方取り入れていくことが文化の役割

検討の方向性など

・公共的空間に文化芸術を生かすことを中心に置きつつ、ＩＣＴも横でにらみながら両方やっていく。
・ＩＣＴを後追いで、公共的空間は少し積極的にというような配分をしながら議論
・もう少し日常の中に文化芸術がどう息づいていくか、接点を持てるかを議論すべき。
【区がやること】
・SFMの再定義をやり、付随するＩＣＴ、公共空間という考え方をしていくと、区がやれることが明確になる。
・少なくとも基礎自治体はインフラづくりと規制緩和はやらなくてはいけない。

調査審議事項1「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるＩＣＴの活用」について

【取組】
・ＩＣＴは非常に技術の進展が早く、後追いは非常に難しい。
・ＩＣＴの活用は、行政が関わるのは非常に難しい部分がある。
・今、自分の部屋でスマホで音楽や美術等を観た後、現地に見に行きリアルに触れるプロセスが日常的になっている。技術も発展しているので、プロセスの支障になるところをサポートする。
・コンテンツが重要なので、コンテンツをどう作り上げていくか、あるものをどう活用するか。
【区がやるべきこと】
・イベント等と集客をＩＣＴによってつなげることへのサポート
・新宿観光振興協会のサイトは多言語対応なので、新宿の文化にアクセスするゲートウェイにする。

調査審議事項2「（新宿区全体への展開を見据えた）新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」について

・公共的空間の活用は、中長期的な大きな都市計画に文化芸術を組み込んでいく考え方でいけばいい。
・公共空間をいかに文化で生かしていくかというテーマを軸にして、SFMと西口を中心として公共空間を生かす。それを区内全域でも展開できるような事業施策が持てると、いろいろな広がりができてくる。
・新宿に来れば文化芸術に触れられるという親しみのような部分で、まちづくりに文化芸術が生かせていければよい。
・色々な規制はある中で、色々な文化芸術を身近に見てもらえるようにするという視点で、公共的空間が生かせるような都市づくりに区として助言する。
・新宿駅周辺の文化地域は、新宿に来る人がつくり出す文化である。新宿駅周辺以外でも、早稲田、神楽坂などにそれぞれに文化的なものがある。こうした新宿に住む人たちの文化も考えていきたい。
・新宿駅周辺再開発は2040年完成なら時間があるようでないかもしれない。再開発の基本的な考え方に文化芸術を生かすことは大手鉄道会社が中心にやるので、文化や芸術を生かすことがすごくメリットがあると鉄道会社に理解してもらう。

新宿フィールドミュージアムの活用

・ＳＦＭみたいなプラットフォーム、ハードではないソフトのインフラもあっていい。
・ＳＦＭを使って演劇や音楽会等を集中的にやり、そこから発信、パフォーマンスを広げていく。
・ＳＦＭは、ここにこういうものがある、あそこにもああいうものがあるという発見をする場でもある。
・ＳＦＭは以前は７月～１１月に広げたが、まちの核となるには２カ月に絞る方がいい。その中でその年のテーマを決めるなりしながら、新宿区の文化芸術の１つの象徴的な存在になるようにしていければよい。
・ＳＦＭは核になるので、ＳＦＭの活用の中にＩＣＴも組み込む。
・ＳＦＭは、ウェブを十分に生かしきれていない部分があるので、ＩＣＴの活用の１つとしてある。

注）
・SFM：新宿フィールドミュージアム